

# 「総ぐるみ」新聞

NPO 総ぐるみ福祉の会事務所は日限山 4・44・23 (八四四一七四七七)  
 入会や活動のお問い合わせ先は、事務所または「日限山荘」日限山 4・7・1

## 平成二十年新春 「初釜」の開催 大橋綾子

一月八日の火曜日、今年も昨年同様に、日限山荘にて初釜が開催されました。この日は、新春初めての日限山荘の開催日で、部屋を茶室として整えるために、座敷を清めることから始まりました。

床の間に大徳寺の墨跡の軸をかけ、長尺のしだれ柳、羽子板香合を飾り、花は梅と白玉椿でした。お道具は真台子と皆具、しめ縄を張った荘厳な様子は、正月にふさわしいしつらえでした。

お客様は、緋毛氈に座って迎え付けを待ちました。

和服姿の宮崎理事長から新年のご挨拶を受け、お茶のお手前をしていただきました。緑高に入れたお正月のお菓子、



「花びら餅が出され、おいしくお茶を点ててくださいました。酒の肴に、山の幸(松葉銀杏)と海の幸(子持ちわかさぎの甘露煮)が八寸にのせて出され、お酒は燗鍋に入れた銘酒を頂戴しました。お昼のご馳走は、美しく上品なお料理でした。

お客様は、和服姿でみえた方も多く、お正月にふさわしく華やいだ雰囲気となりました。参加された会員の方々も順次お手前をして、楽しみました。

新年の「初釜」行事が滞りなくできることは、日々無事に過ごすことができていることでしょう。今年もNPO 総ぐるみ福祉の会の繁栄と、会員皆様の幸せを祈っております。

●初釜に出席して 門脇 恵子

新春行事の初釜に席入ささせていただきました。遅参したため、先客はお帰りになされましたが、格調高い台子のお手前を拝見。ご亭主より「お菓子をどうぞ」のご挨拶。初釜には恒例の花びら餅、羽二重餅に白みそ餡とごぼうの香りと風味が、抹茶の味を引き立て、この発想には敬意を表します。薄茶が運ばれ、次客に「お先に」と一礼して一服、お干菓子をお奨められて一服、重ねてもう一服、感謝の気持ちを込めてもう一服、最後吸いきれずに懐

紙で拭き清めて、充分に薄茶を楽しみました。床には大橋先生が心を込めて選ばれた掛け軸、結び柳がお正月の華やかさを盛り上げ、花入れの梅と白玉椿が春の訪れを感じさせて、和の美を堪能させていました。つづいて、台子のお手前など心得も扱いもすっかり忘れていましたが、大橋先生のご指導でお稽古させていただきました。

日本人は古来礼儀を重んじる国民、茶事を通して、私達の日常生活も潤いある美しいものにしたものです。

●初釜にお誘いいただいて 赤羽多規子

初釜の席に出させていただくなんて、何年ぶり、いや何十年ぶりでしょうか。結婚前は習い事の一つとして、表茶道を少々たしなみました。以後、お薄をいただくことはあっても、本格的なお席には縁がありませんでした。茶席でまず目に入ったのが緋毛氈、強烈な印象を受けました。結び柳に墨跡の掛け軸、いろいろなお道具が取り揃えられ、高価な器の説明を聞きながら、昔に返ったような心豊かなひと時でした。日本古来の伝統の美を今に伝え、このような身近なところで手軽に味わえるなど、夢のようなでしたし、訪問着姿の正装の方々のしとやかな振舞は目を見張る光景で、楽しませていただきました。

主催してくださった方々、前日からの準備また大切なお道具の後片付け等さぞたいへんだったことでしょう。厚く御礼申し上げます。

## 介護老人保健施設 『やよい台 仁』

NPO 総ぐるみ福祉の会では、今までに、有料老人ホームといっても、外見・内装が一流ホテルと見まがうばかりのエントランスやロビーを持つ豪華なもの、会社の独身を改装した質素な感じのところ、所在地が街中のホームや、葉山海岸そばのリゾート感覚のところなど、タイプの異なったホームの施設見学会を行ってきました。

今回は視点を変えて、介護老人保健施設『やよい台 仁』を昨年十二月に見学しました。ここへ入居するには、介護認定を受けていることが前提条件であり、家庭復帰を目指して医療・リハビリなどの療養生活を送ること、高額な入居金が不都合なことなど、終の棲家（ついのすみか）としての有料老人ホームとは大分違っています。

そのため、両者を比較することは適当ではありませんが、将来起こりうる自宅介護がもう限界の時のための選択の材料や、予備知識を得るために見学してみました。

◎所在地：相鉄線弥生台駅から、徒歩七、八分の閑静な住宅街の一角にあり、三階建ての大きな建物です。総ぐるみ福祉の会や自治会主催の医学講演会で、ご講演いただいた佐久先生が院長の十慈堂病院とは姉妹組織で、平成十三年にオープンしました。

◎入所定員：定員は百二十名。二階が一般棟、三階が認知症専門棟で、「通所リハビリテーション」サービスが併設されています。

◎食事関係 管理栄養士のもと、カロリー、塩分などが計算された食事が提供され、高血圧、糖尿病等の対応メニューも用意されています。嚥下障害のある入居者などには、きざみ食、ミキサー食を、介護職員がそばについて、毎食介助しています。また、午前、午後には日替わりでお茶・紅茶・コーヒの時間があり、お菓子がつきます。

見学当日は、たまたまバイキング形式（各種料理の大皿盛りをテーブルごとに配膳）の昼食の日で、入居者の食がすすむ、という話を聞きました。

◎医療・リハビリ関係：専任の医師が常駐していて、入居者を常時観察、診察をしています。今まで見学したホーム、施設でも、入院や病院と提携契約をしています。高齢入居者だけに医師の常駐は心強いでしょう。万一重態となった時のために、湘南泉病院と提携していて、看護職員も十五名と数多く在籍しています。また歯科は、提携歯科医の訪問診療が受けられます。

通所リハビリテーションサービスが併設されている関係で、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の数も多く、一般入居者のリハビリにもあたっています。

◎居室：居室は四人部屋が主で、整理棚とカーテンで各ベッドの間を仕切っています。各部屋には洗面台が設けられています。トイレは室外にあつて、部屋の近くの

各所に設けられていました。

他に二人部屋や個室があり、希望に応じています。ちなみに個室は、一日三千五百円の別料金が必要ですが、室内に洗面台、トイレが設置されています。

◎入浴：入浴は週二回。介助の必要な入居者用の個人浴槽が二槽ありました。機械式浴槽は、介助者も作業が楽ですが、"あれはお風呂に入ってゆつたりとする、というものではないですね"という事務長さんの言葉を裏付けるように、ここ「仁」では、数人が一度に首までゆつたりとつかれる、大きな「檜風呂」があつて、自立の入居者に好評のようでした。

◎入居費用：介護認定を受けていることが入居の条件ですから、介護度によって利用金額に差がありますが、介護保険費用の1割の自己負担が必要です。介護保険適用外の費用として、食費、光熱水道費、日用品費、娯楽費等が必要で、金額は施設ごとに設定されており、入居に当たってはくわしい説明を受ける必要があるでしょう。そのほか、室内着などのレンタル制度を使えば家族の負担は軽減されるし、逆に持ち込み、持ち帰りの自宅洗濯も可能なようです。

◎感想：居室、食堂、廊下、トイレなど匂いなどなく、清掃が行き届いていて、清潔そのものでした。見学が年末でしたので、翌年の干支のねずみの飾り物を、皆さんがおしやべりをしながら和気藹々で作っていらつしやる、和やかな風景が見られました。

（文責 浮田泰治）